

ん底に……。伊藤先生もヨーロッパ研修で不在の時期もあり、定期やコンクールではいつも先輩に盾をつけて迷惑かけていました。そして、2年の後半「音楽の教師になりたい」と両親に相談したところ、「音楽は東京に行かねばだめだ」と、普段あまり話をしない父親に言われ、学費を心配する間もなく、音楽大学を目指すことを決心。感謝しています。しかし担任に相談するも「高校から始めたクラリネットでは無理だ」と言われ、他の専攻も考えましたが、クラリネットで月一度のレッスンを受け、その結果、無事武蔵野音楽大学に合格。音楽を学ぶ道に進むことになりました。

いよいよ3年生になり最後の部活で、吹奏楽に打ち込みます。「全国大会目指して3年生まで部活を続けた7人最強の仲間と最高の演奏を」が目標でした。吹奏楽部長を拝命し、後輩にも恵まれ充実した活動ができました。特に定期演奏会は多彩で熱狂的な企画で盛り上がりしました。第一部でアルフォードのマーチ、シヨスタコービツチの祝典序曲、第二部ではドラムに天才的な小野君というブレイヤーがいて、グレシミラーにベニグッドマン、映画音楽、第三部ビックバンドでは、私が徹夜でアレンジしたビートルズ「シーラヴズユー」ELP（エマーソン、レイク&パーマー）2001年宇宙への旅に1分のドラムソロで大活躍。アイドル並みの人気でした。また、盟友サックスの天才深井次郎君の演奏だけでなく、爆笑の名司会。第四部では、私がクラリネッ



トソロでウエーバーのコンチエルトイノを吹き、レスピービのローマの松。最後にチャイコフスキーの序曲「1812年」。今思うと、何とも無謀な選曲でしたが、伊藤先生もよく許可してくれたな、と思います。幕間に、こちらも天才ギタリストがいて「アルハンブラ宮殿の思い出」、そして伝統の合唱「学生歌」、この定期の伝説はしばらく語られ続けました。

「ローマの祭」に狂喜乱舞

そして高校生最後のコンクール。伊藤吉雄先生と「社長室（俗称）」音楽準備室で3年生と選曲。ドラムの名手、小野君とポップスのスタイルにも精通していた伊藤先生とピツタリの選曲、東海林修「デイスコキッド」に即決。この曲は人気で今でも演奏され続けています。自由曲は、社長室で吹奏楽コンクール全国大会のレコードをかけながら選曲。3年生一押しはレスピーギの交響詩「ローマの祭」。駒澤大学の名演を伊

藤先生が聴き終わった瞬間「これしかねあゝ」の一言。全員が狂喜乱舞！今思い出しても熱い思いがこみ上げます。楽譜も先生が直々に駒沢の上桝先生にお願いして用意してくれました。

そして私たち最後のコンクール秋田県大会。課題曲、自由曲のソロも次々に決まり劇的に盛り上がりつつ演奏を終えた私たちに、会場中から万雷の拍手！最高の演奏ができた喜びお互いをたたえ合いました。そして閉会式。私が表彰式に登壇し、結果発表。前年全国大会金賞の秋田南高校、花輪高校、横手高校が代表でした。「結果には泣かない」と決めていましたが、舞台袖に下がった時、南高の故高橋絃一先生に「演奏最高にいがったよ！」と肩を叩かれて、私は号泣したことも忘れられませんが、その後、「ローマの祭」は、勤務した川越市立野田中学校は全日本トップで金賞、川越奏和奏友会吹奏楽団も初出場で全国金賞、秋田吹奏楽団も創団依頼初の金賞、そして私の全曲アレンジもレンタルされ、この曲は全国で演奏が続いている思い出の曲です。

ドラマはまだまだ続きましたが、部活動引退の日、部長最後のあいさつに、後輩たちが涙を拭おうともせず、感謝の拍手をしてくれた姿も心に残っています。これらの経験があったからこそ、今も吹奏楽を続けているのだと思います。

吹奏楽コンクールは中学1年から今年度まで楽器と指揮で毎年参加していることになりました。ほんとに長い付き合いです。コンクールの指揮

も武蔵野音楽大学1年生からなので、デビューから40年がたちました。今とても充実した生活ができています。今と感ぜられるのは、これまでに進路を決定してきた節目に出会った素晴らしい先生方のお陰です。そして現在私の関わっている武蔵野音楽大学、尚美学園大学、立正大学の学生、埼玉県立松伏高校音楽科の生徒、渋谷区青少年吹奏楽団、秋田吹奏楽団、川越奏和奏友会吹奏楽団、福井のソノレウインドアンサンブルの団員。さまざまな世代、職業、地域の人が集まっていて、いつも様々な角度の話題を聞くことができます。その千差万別な考え方や音楽に対する姿勢、意見や熱意にはいつも教えられることが多いです。

楽器を続けることに魅力

学校を卒業しても吹奏楽を続けている仲間たちからその理由を聞いてみると、どうしても続けたくてすぐ一般バンドに入団したという人もいましたが、途中で楽器を吹く機会がなくなったり、あるいは全く吹けなかつたりする時期を経験し、「やっぱり自分は音楽が好きだ」「吹奏楽をやっていると楽しい」「楽器が好きだ」という自分に気がついて、続けることを決心している人も多いようです。それだけ楽器を続けることや吹奏楽の活動に魅力があるということとです。そういう私も音楽から離れることなく今日にいたっています。読んでくださった皆さんと、これからも秋田高校を卒業した仲間として末永くお付き合いをお願いします。